

週間展望(2/28～3/6)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

ロシア、ウクライナ侵攻

- 先週レポートで《～前略）DNRとLNRにいるロシアパスポートを所有する市民の数は、652,000人（人口の3分の1）。いかなる制裁があろうともプーチン大統領に、ここを見捨てる選択肢はない。2月23日の祝日（赤軍の日・祖国防衛軍の日）～24日の米ロ外相会談までに解決策が見つからなければ、ウクライナ侵攻の可能性は増大する》としたが、先週は、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始した事で、有事のドル買いや円買いの動きが広がり、株式市場は大幅安、主要国の債券が買われた。
- ただ、ロシアのウクライナ侵攻で、NYダウは859ドル安となる場面があったが、年明け以降の下げがきつかったハイテク株を中心に押し目買いが入り、上昇に転じた一方、金・原油は「噂で買って、事実で売る」「知ったら終い」の展開となり、ドル円も週末にかけて、買い戻しの動きから反発となった。
- 先週末のドル円は、前日比5銭円高・ドル安の1ドル=115円45～55銭で終えた。ロシアがウクライナとの停戦交渉に応じる構えを示し、紛争の長期化が避けられるとの見方が強まった。
- ユーロは対ドルで3営業日ぶりに反発し、前日比0.0080ドル、ユーロ高・ドル安の1ユーロ=1.1265～75ドルで取引を終えた。
- CFTC建玉明細(2/22現在)によると大口投機玉は、63,187枚の売り越し。前週(66,162枚の売り越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 今週は米雇用統計を始めとして、注目度の高い経済指標が発表されるが、ロシアのウクライナ侵攻の影響で経済指標の注目度が低下しており、ウクライナ情勢に変化が出れば、経済指標よりも、そちらに反応する可能性。
- FRBは3月以降は利上げに動く可能性が高いとみられるが、利上げ幅に関しては流動的。



ウクライナ情勢と経済指標の綱引き

- 前回発表分の強い雇用統計と、7.5%に達した消費者物価前年比を受け、市場では3月のFOMCで0.5%の利上げを行う可能性を一時90%以上織り込んでいたものの、ウクライナ情勢の緊迫化が進み、直近では10%台まで落ちている。
- ウクライナ問題が収束してこない、大幅利上げは難しいという見方が広がっており、雇用統計で強めの数字が出ても、反応は限定的となる可能性も。
- 2日と3日にパウエルFRB議長の議会証言。3月15～16日のFOMCで利上げが見込まれる中、ウクライナ情勢や、インフレ・利上げに対してどのような見解を打ち出すか注目される。ドル円の戻りも限定的か？
- ロシア軍はウクライナ各地に侵攻し、25日までに首都キエフを包囲した。ゼレンスキー大統領は、プーチン大統領に「交渉の席に着くことを呼びかける」と述べた。この呼びかけに対し、ロシアのペスコフ大統領報道官は25日、モスクワで記者団に「プーチン大統領は提案に応じ、(ベラルーシの首都)ミンスクに代表団を送る用意がある」と述べた。ロシアはキエフの包囲網を築きながら、ウクライナ政府に譲歩を迫る意向。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《今回も緊張を受けて買い進まれており、実際の侵攻開始となっても、短期間で戦闘が終了・休戦協定が結ばれるなら、「噂で買われて事実で売る」パターンになるかもしれない》としたが、先週は、ロシアのウクライナ攻撃を受けて急伸、NY金(4月限)は1976.5ドル(2/24)、JPX金先限は上場来高値7269円(2/25)を付けた。ただし、想定通り、侵攻で「知ったら終い(仕舞い)」となり、内外共に長い上ヒゲを付けて、調整入りとなった。

知ったら終い

- 先週末のNY金(4月限)は反落。ロシア軍は首都キエフに向けて進軍していたものの、ロシアとウクライナが協議する可能性があるかと伝わったことが安全資産である金を圧迫した。
- ロシアとウクライナ両国は25日、停戦に向けた協議を始めることで一致した。ロシアは停戦協議を始めるとのゼレンスキー大統領の提案に応じると回答したが、プーチン大統領は同日にオンライン形式で開いた安全保障会議で、ゼレンスキー政権を念頭に「麻薬中毒者やネオナチの徒党」と合意するのは難しいと述べている。
- ロシア側はベラルーシの首都ミンスクに代表団を派遣する用意だが、ベラルーシからもロシア軍が進軍してきたことから、ウクライナとしてはミンスクでの協議は避けたい模様で、北大西洋条約機構(NATO)加盟国であるポーランドでの開催を主張。開催場所を巡って両国がまとまっていないほか、ロシアのラブロフ外相はウクライナが降伏するまで交渉には応じないと語っている。
- CFTC建玉明細(2/22現在)によると大口投機玉は、243,148枚の買い越し。前週(213,613枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

初押し買うべし

- 既存レポートやTV番組でお伝えしたように、過去の地政学リスク発生時の金価格の値動きと同様に、実際の侵攻開始で、「噂で買われて事実で売る」パターンとなった。
- ただし、過去の紛争時と異なり、今回は地政学リスク要因だけで上昇しているのではなく、「インフレ」と言う大きな要因が背後に控えている。FRBの政策舵取りは、非常に困難であり、インフレリスクとFRBの政策ミスリスクの両方に対するヘッジとして、地政学リスクの一服感や、原油安に追随する安値は、「悪い金利上昇」懸念を背景に、再び買い拾われると見る。
- NY金(週足)は、長らく続いた三角保合いを上放れたばかりで、52週移動平均線との乖離率も、過去の推移と比べると過熱感のあるレベルではない。「知ったら終い」の調整後は、相場格言にある「初押し買うべし」の展開となりそう。
- 1900ドル～1920ドル水準は価格帯別出来高の厚い支持帯。1820ドル～1850ドル水準は、年初からの上昇に対する61.8%押し(1855.4ドル)や、200日移動平均線(1815.9ドル)とも重なる強力な重要支持帯。
- 底打ちを示唆するようなチャート上のパターンが確認できたら、試し買い場面となりそう。
- クリミア半島併合(2014年)に対する欧米からの制裁が強まった頃からロシアは、ドル依存を低下させてきた。22年1月にロシアが保有する外貨準備・金は約6300億ドルと15年1月の1.7倍増。全体の約20%を金が占め、比率は2倍に拡大した。一方、17年に4割を超えていたドル比率は21年に約16%まで低下。貿易では主に中国との間でユーロ決済を増やし、13年に輸出総額の約8割だったドル決済を50%台に低下させている。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

調査課
菊川 弘之


【前週レビュー】

- 先週レポートで「ウクライナ情勢の緊迫化で、金が「安全資産」としての買いを集めているのに対して、白金は工業用需要の低下懸念に上値が抑えられている。(～中略) 2月23日は、ロシアの祝日(赤軍の日)。24日には米ロ外相会談。この日までに解決策が見つからなければ、直接衝突の可能性は増大する。休戦協定が結ばれていた北京オリンピックは2月20日に閉幕した。短期的には、ウクライナ情勢の行方や、米利上げ観測に伴う米株動向に左右されそう。」としたが、白金相場はロシアのウクライナ攻撃や金急伸を受けて堅調となった。NY白金(4月限)は、1132ドル(2/24)を付け、JPXプラチナ先限は昨年6月以来の高値 4092円(2/25)を付けた。

上ヒゲ形成

- ロシアのウクライナ攻撃や金急伸を受け上値を伸ばしたが、欧米が制裁を発表したものの緩やかな内容となり、原油高が一服し、金同様「知ったら終い」で長い上ヒゲを形成し、調整入りとなった。
- 先週のNY白金(4月限)は、続落。首都キエフで防戦を続けるウクライナと、侵攻を続けるロシアが協議を開始する可能性があることと伝わったことから、警戒感はいったん緩んだものの、売りが優勢だった。西側各国がロシアに対する追加制裁を重ねていく可能性が高く、景気見通しが悪化していることが嫌気された。
- CFTC建玉明細(2/22現在)によると大口投機玉は、17,540枚の買い越し。前週(10,132枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

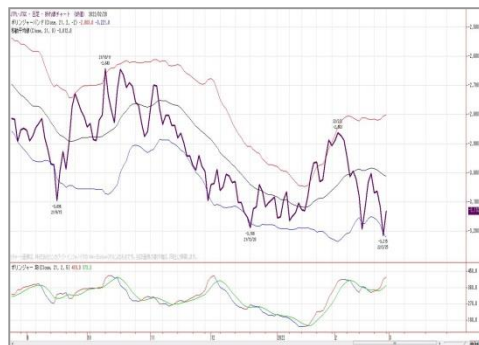
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ボリンジャーバンドでは、「白金-金」の鞘は、「金買い・白金売り」。中心線(21MA)が上値抵抗として機能しているものの、 -2σ 突破からのリバウンド局面で、「金買い・白金売り」の一部は手仕舞われている。
- 金が上ヒゲを付けて調整安、株価が下ヒゲを付けて調整高を見せており、短期的には「白金-金」の鞘は中心線への戻りを試す流れとなりそう。
- 世界の半導体大手各社は、素材の在庫積み上げや調達が多様化を進めたことで、ロシアのウクライナ侵攻による供給網の混乱は限定的にとどまると予想しているが、ウクライナは米国の半導体製造に使われているネオンの90%以上を供給。ロシアは米国で使われるパラジウムの35%を提供している。事態の長期化や、制裁合戦となると景気にも悪影響を与えかねず、要注意。
- 現段階では、短期間で休戦協定が結ばれる可能性が意識されてマーケットは動き始めているものの、休戦への道筋は不透明だ。
- また、ロシアのコモディティを輸入している企業は信用状(LC)の取得が困難となりつつある。中国工商銀行はロシアから商品を入力するためのドル建てLCの発行を停止。主要国はロシアのエネルギーセクターへの制裁を回避しているものの、国際銀行間通信協会(SWIFT)からロシアを遮断することが選択肢として検討されていることから、場合によってはロシアからの供給が途絶する可能性がある。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ ゴムRSS3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「2月23日は、ロシアの祝日(赤軍の日)。24日には米ロ外相会談。この日までに解決策が見つからなければ、直接衝突の可能性は増大する。」としたが、先週のRSS3号は、ウィンタリング(落葉期＝減産期)に入っている産地での取引数量減少・価格上昇に追随し、先限は一時274.0円(2/25)まで上昇した。活発限月の7月限は2月24日に265.4円まで上昇し、一代の高値を更新した。
- ただし、ウクライナ危機の中で続伸を続けていた金や原油が、実際の戦闘開始で、「噂で買って、事実で売る」反応を見せ、週末に調整の流れとなった事に追従して、ゴムも高値から値を削る展開となった。

【今週見通し・戦略】

- 産地では、ウィンタリング(落葉期＝減産期)の影響から供給がタイトになっており、タイ南部のソクランのRSS3号のオファー価格が、年初64パーツ台前半から73パーツ台後半まで上昇している。ウィンタリングの期間は、例年4月のソクラン(水祭り)までとされる。なお、昨年3月5日に75.24パーツの高値を付けたのち、高値圏の保合いとなり、その後、地合いを緩めた。季節傾向の強い銘柄であるが故に、季節パターンには注意したい。
- 今週は米雇用統計などのマクロ経済指標も予定されているが、ゴムにとっては、ウクライナ情勢の行方と、同時に行われている米欧とイランとの核合意復帰協議の行方に伴う原油市場の行方にも注意したい。米国世論調査ではウクライナ問題への積極的な関与を望む声は2割台にとどまる一方、インフレに対する不満は高く、中間選挙の争点にもなっている。戦略備蓄(SPR)放出などに加えて、季節的にも北半球の暖房油需要がピークアウトする時間帯に向かっていく。

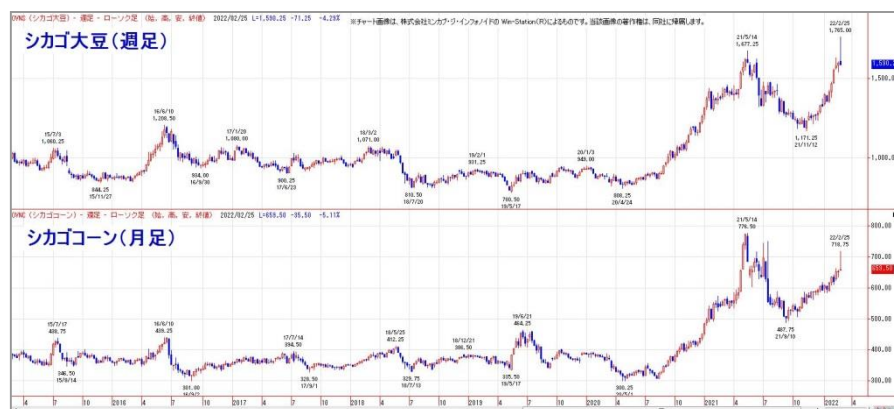
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで«「2月安」の時期であるものの下値は限定的のまま、春からの米国天候相場を迎えることとなりそう»としたが、先週のシカゴ穀物は、堅調推移が継続。
- 先週末のシカゴ穀物は、ロシアとウクライナが協議すると伝えられる中、高値で手仕舞い売りが膨らみ、大豆・コーン共に長い上ヒゲ形成。上昇のリード役だった小麦の暴落に追随した格好。
- CFTC建玉明細(2/22現在)によると大豆の大口投機玉は、226,464枚の買い越し。前週(216732枚の買い越し)から拡大。コーンが451,742枚の買い越し。前週(414,492枚の買い越し)から拡大。
- 週間純輸出成約高(2月17日までの週)

大 豆: 209万9000トン(事前予想レンジ: 70万～150万トン)

【今週見通し・戦略】

コーン: 115万8300トン(事前予想レンジ: 50万～120万トン)

- ロシアとウクライナは大豆の主要生産国ではないものの、ひまわり種子の主要生産国であり、食用油の供給引き締まりが警戒されている。また、南米からの供給縮小に伴う輸出用需要の拡大が見込まれる。高温乾燥により生産量が事前予想を下回っている南米からの供給増加が期待できないだけに、今後も米国産の下値は根強い需要が支えそうだ。
- 24日の高騰後の軟化により、目先の上げ一巡感が強まっているが、根強い需要に買い支えられるなか、売り一巡後は、再び押し目買い基調に戻りそう。今年の米国産の天候相場は、南米産の不作で在庫の積み増しができていない状況で突入することになる。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《～前略）季節的にも3月は暖房油の需要がピークアウトしていく時期で、原油相場には調整が入りやすい時間帯だ。ただし、例年、原油相場は春先に調整が入るものの、夏高に向けた買い場となるケースが多く、アフターコロナ需要増加期待も強い。IEA見通しでも今年の需要は、コロナ以前の水準を上回る予想。また、ウクライナ侵攻が起きた場合、短期的に100ドル超への噴き上げリスクも残ったままだ》としたが、先週のNY原油(4月限)は、24日にウクライナに軍事侵攻したことで、ニューヨーク原油、ブレント原油ともに噴き上げて、期近がともに100ドル台を突破した。ただし、実際の侵攻と共に「知ったら終い」で、高値から売られ長い上ヒゲ形成後、調整入りとなった。
- 週末のNY原油(4月限)は、反落した。前日までは欧米による経済制裁でロシアから欧州への原油と天然ガスの供給が滞り、需給が逼迫するとの見方から原油相場が上昇していたが、ロシアがウクライナとの停戦交渉に臨む考えを表明し、紛争が早期に終結するとの見方が強まった。
- ロシア軍はウクライナ各地に侵攻し、25日までに首都キエフを包囲した。ゼレンスキー大統領はロシアの破壊工作員が首都キエフに入ったとの情報を明らかにし、プーチン氏に「交渉の席に着くことを呼びかける」と述べた。この呼びかけに対し、ロシアのペスコフ大統領報道官は25日、モスクワで記者団に「プーチン大統領は提案に応じ、(ベラルーシの首都)ミンスクに代表団を送る用意がある」と述べた。
- ロシアはキエフの包囲網を築きながら、ウクライナ政府に譲歩を迫る意向。
- CFTC建玉明細(2/22現在)によると大口投機玉は、339,041枚の買い越し。前週(348,093枚の買い越し)から縮小。

噂で買って、事実で売る

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(2/28～3/6)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

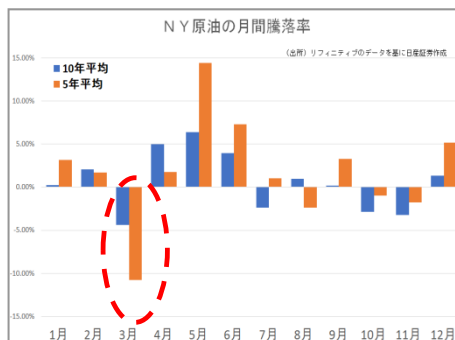
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY原油のRSIは修正を示唆する逆行現象を形成。
- イランの核合意協議が大詰めになっている事や、戦略備蓄(SPR)放出などに加えて、季節的にも北半球の暖房油需要がピークアウトする時間帯に向かっていく。



ウクライナ情勢と イラン核合意協議の 綱引き

- 価格帯別出来高の厚い90ドル～95ドルが上値抵抗帯に変化するか否かに加え、ウクライナ情勢とイランの核合意協議の行方、雇用統計を受けた株価動向などが注目要因。ゼレンスキー大統領は27日、ペラルーシ大統領との電話会談後に声明で、「ウクライナの代表団は、ロシア代表団との協議を、プリピャチ川近くのペラルーシとの国境で前提条件なしに行うことで合意した」と述べた。
- 原油下落で春先にインフレは収まったとの思惑が一時的に強まるかもしれないが、南米産の不作で、例年「2月安(南米産の収穫)」で下げる時期に下げていない穀物の在庫水準は低いままで、地政学リスクにかかわらず、商品市場の需給タイトな地合いは全般に続くと思われ、インフレ懸念は夏場に再度高まる可能性。
- また、「OPECプラス」は、イランが核合意再建で合意に達した場合、米国による制裁措置の影響で、現行のOPECプラスの協調減産の義務を免除されているイランを協調減産に参加させる方向。また、仮に、合意がまとまっても「再履行の日」までは、イランの合意状況を確認しながら、制裁解除は1—3カ月後と見られる。

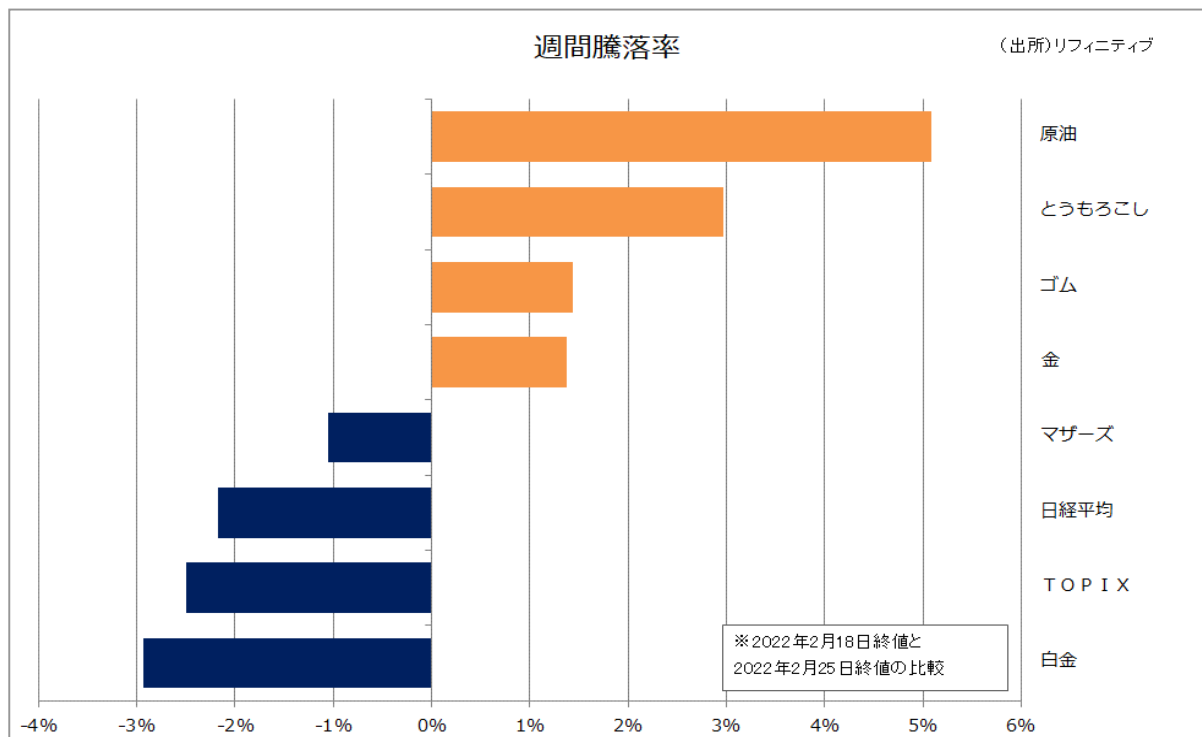
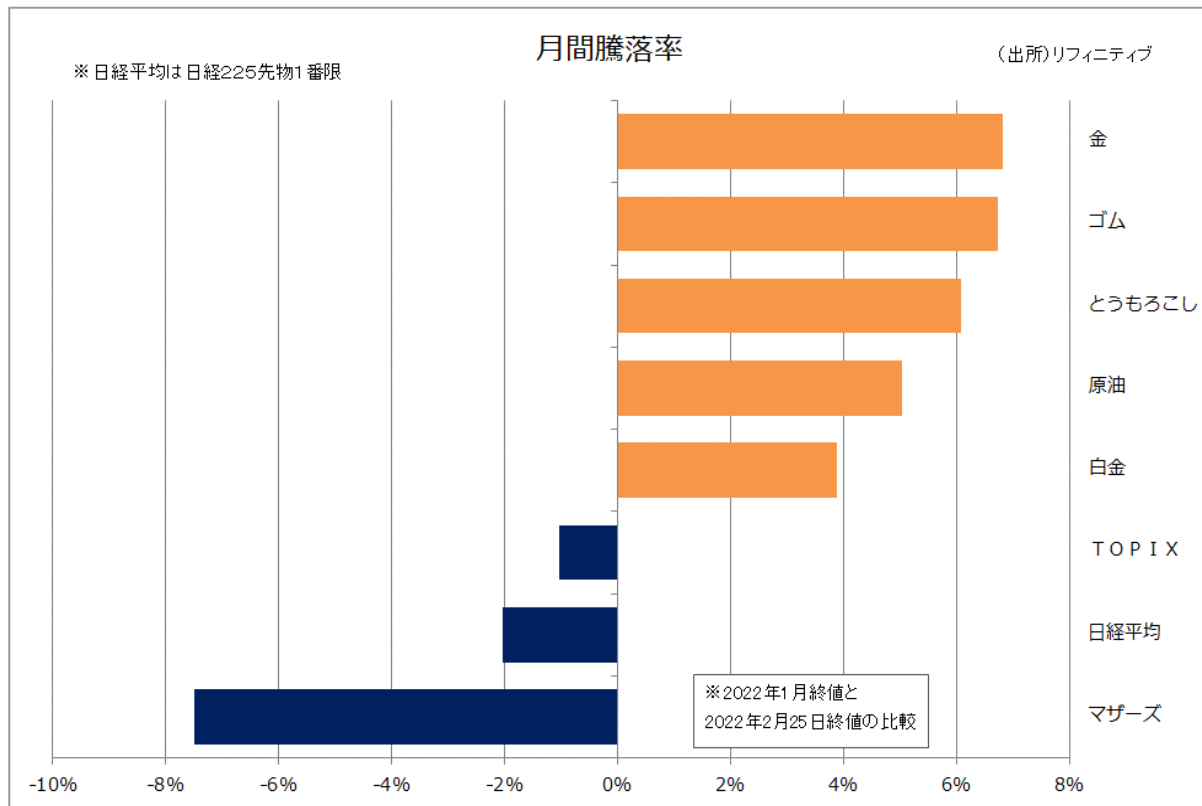
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(2/28~3/5)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
2月28日(月)	8:50	日本	1月	鉱工業生産 速報値 (前月比) 季調値	
	8:50	日本	1月	小売業販売額 (前年比)	1.4%
	14:00	日本	1月	新設住宅着工戸数 (前年比)	4.2%
	16:00	英国	2月	ネーションワイド住宅価格 (前月比)	0.8%
	16:00	英国	2月	ネーションワイド住宅価格 (前年比)	11.2%
	18:30	英国	1月	英中銀 消費者信用残高	0.831 (十億)
	18:30	英国	1月	住宅ローン貸付額	3.571 (十億)
	18:30	英国	1月	住宅ローン承認件数	71.015 (千)
	23:45	米国	2月	シカゴ地区購買部協会景気指数	65.2
	納会	日本	---	ゴム (TSR20) 2022年3月限納会日	
	納会	日本	---	東京ブラッドパイ 原油先物2022年2月限取引最終日	
	納会	米国	---	NYヒーティングオイル2022年3月限納会	
3月1日(火)	10:30	中国	2月	国家統計局 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	50.1
	10:45	中国	2月	財新 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	49.1
	16:00	ドイツ	1月	小売売上高 (前年比) 実質	0.0%
	17:55	ドイツ	2月	マークイット / BME 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	58.5
	18:00	ユーロ圏	2月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	58.4
	18:30	英国	2月	マークイット/CIPS 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	57.3
	22:00	ドイツ	2月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前年比)	4.9%
	22:00	ドイツ	2月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)	5.1%
	23:45	米国	2月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	57.5
3月2日(水)	0:00	米国	1月	建設支出 (前月比)	0.2%
	0:00	米国	2月	ISM 製造業購買担当者景気指数 (PMI)	57.6
	0:00	米国	2月	ISM 製造業価格指数	76.1
	8:50	日本	Q4	財務省法人企業統計 (前年比)	1.2%
	16:00	ドイツ	1月	鉱工業受注 (前月比)	
	17:55	ドイツ	2月	失業者数増減 季調値	-48 (千)
	17:55	ドイツ	2月	失業率 季調値	5.1%
	19:00	ユーロ圏	2月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)	5.1%
	19:00	ユーロ圏	2月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) (食品・エネルギー除) 速報値 (前年比)	2.4%
3月3日(木)	22:15	米国	2月	ADP 民間部門雇用者数	-301 (千)
	10:45	中国	2月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	51.4
	17:55	ドイツ	2月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)	56.6
	17:55	ドイツ	2月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	56.2
	18:00	ユーロ圏	2月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	55.8
	18:00	ユーロ圏	2月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	55.8
	18:30	英国	2月	マークイット/CIPS サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	60.8
	18:30	英国	2月	準備資産総額	196,480.43 (百万)
	19:00	ユーロ圏	1月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	26.2%
	19:00	ユーロ圏	1月	失業率	7.0%
	22:30	米国	2月21日, 週次	新規失業保険申請件数	
	22:30	米国	2月14日, 週次	継続失業保険受給総数	
	22:30	米国	Q4	労働コスト 改定値	0.3%
	22:30	米国	Q4	労働生産性 改定値	6.6%
	23:45	米国	2月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	56.0
3月4日(金)	23:45	米国	2月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	56.7
	22:30	米国	2月	米雇用統計	
	0:00	米国	1月	製造業新規受注 (前月比)	-0.4%
	0:00	米国	2月	ISM 非製造業総合指数	59.9
	8:30	日本	1月	有効求人倍率	1.16
	8:30	日本	1月	失業率	2.7%
	18:30	英国	2月	マークイット / CIPS 建設業購買担当者景気指数 (PMI)	56.3
	19:00	ユーロ圏	1月	小売売上高 (前年比)	2.0%
	3月5日(土)	5:30	米国	前週分 CFTC建玉明細	

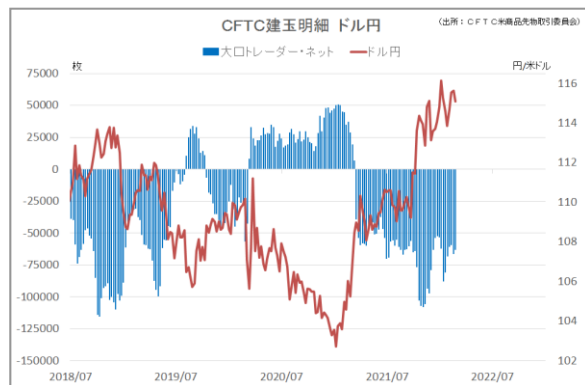
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

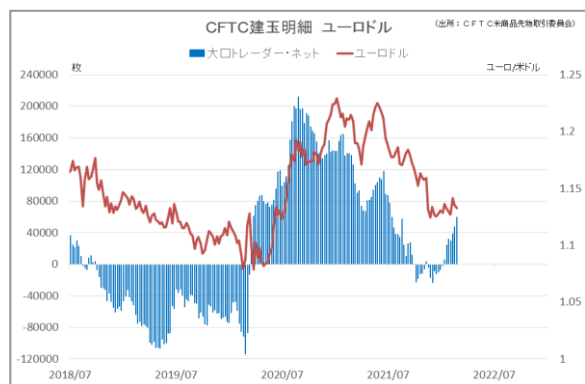


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

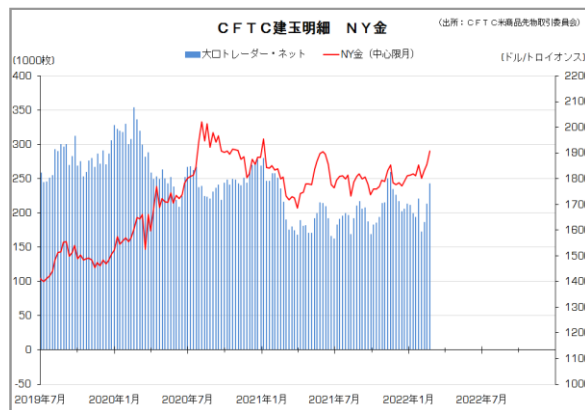
【CFTC建玉明細】



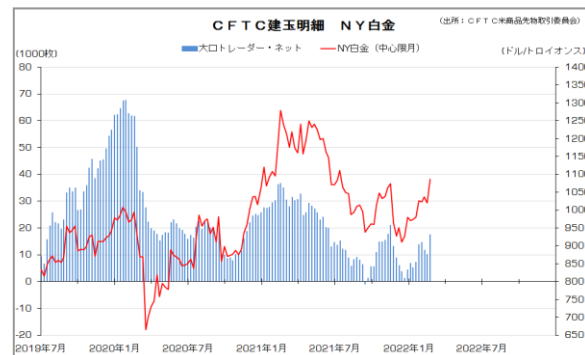
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	15,866	84,139	-68,273	113.86
2022/2/1	14,510	75,150	-60,640	114.71
2022/2/8	15,692	74,840	-59,148	115.54
2022/2/15	10,425	76,587	-66,162	115.62
2022/2/22	10,976	74,163	-63,187	115.08
前週比	551	-2,424	2,975	-0.54



日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	213,408	181,848	31,560	1.1299
2022/2/1	213,563	183,847	29,716	1.1269
2022/2/8	218,973	180,131	38,842	1.1414
2022/2/15	217,899	170,318	47,581	1.1356
2022/2/22	214,195	154,889	59,306	1.1325
前週比	-3,704	-15,429	11,725	-0.0031



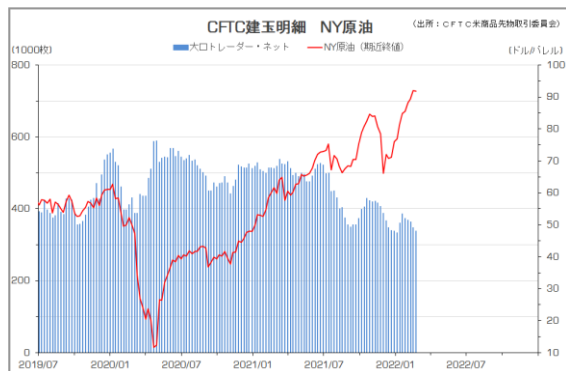
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	313,415	93,264	220,151	1852.5
2022/2/1	275,994	103,852	172,142	1801.5
2022/2/8	279,559	92,853	186,706	1827.9
2022/2/15	313,269	99,656	213,613	1856.2
2022/2/22	350,096	106,948	243,148	1907.4
前週比	36,827	7,292	29,535	51.2



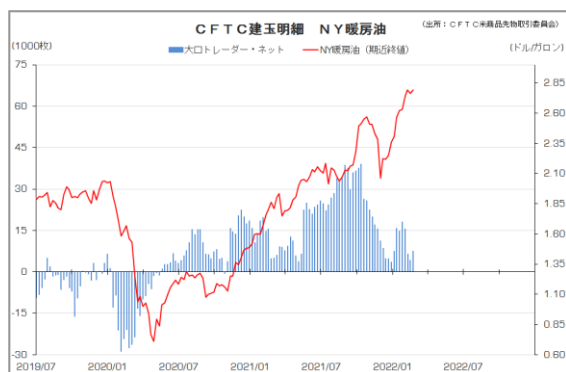
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	27,429	13,637	13,792	1025.5
2022/2/1	28,171	13,590	14,581	1023.2
2022/2/8	28,134	16,375	11,759	1036.3
2022/2/15	28,217	18,085	10,132	1020.4
2022/2/22	32,462	14,922	17,540	1086
前週比	4,245	-3,163	7,408	65.6

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

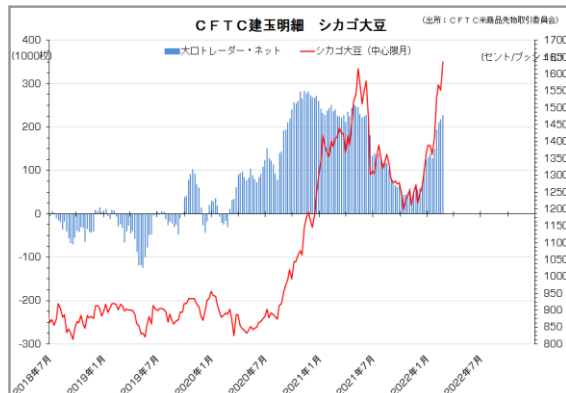
【CFTC建玉明細】



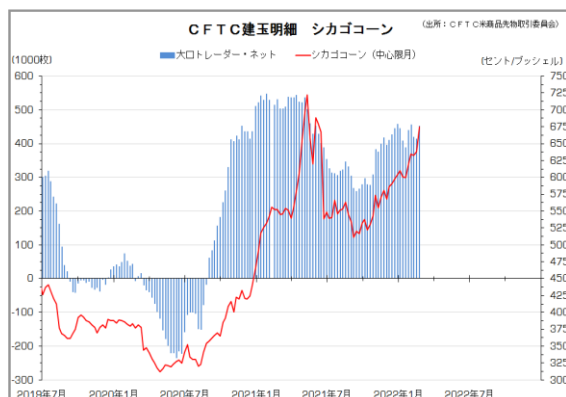
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	492,310	118,895	373,415	85.6
2022/2/1	487,606	118,702	368,904	88.20
2022/2/8	480,560	117,177	363,383	89.36
2022/2/15	458,819	110,726	348,093	92.07
2022/2/22	442,102	103,061	339,041	91.91
前週比	-16,717	-7,665	-9,052	-0.16



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	60,678	42,678	18,000	2.6292
2022/2/1	64,794	49,111	15,683	2.7412
2022/2/8	59,340	52,885	6,455	2.7926
2022/2/15	58,952	54,791	4,161	2.7643
2022/2/22	59,571	52,147	7,424	2.7905
前週比	619	-2,644	3,263	0.0262



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	197,316	48,444	148,872	1407.25
2022/2/1	235,972	42,599	193,373	1528.50
2022/2/8	255,224	45,494	209,730	1569.00
2022/2/15	261,666	44,934	216,732	1551.25
2022/2/22	274,012	47,548	226,464	1635.00
前週比	12,346	2,614	9,732	83.75



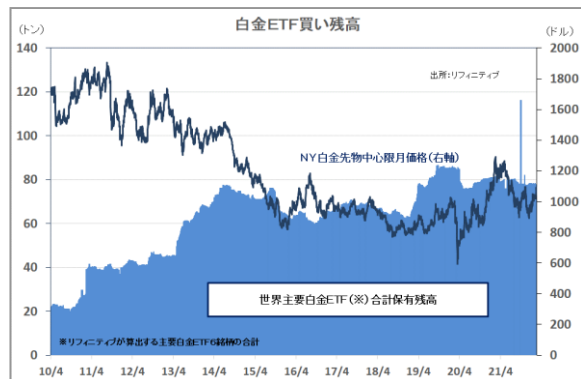
シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/1/25	524,903	85,805	439,098	620.00
2022/2/1	547,596	92,376	455,220	634.75
2022/2/8	519,855	100,253	419,602	632.25
2022/2/15	510,734	96,242	414,492	638.00
2022/2/22	536,898	85,156	451,742	674.75
前週比	26,164	-11,086	37,250	36.75

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

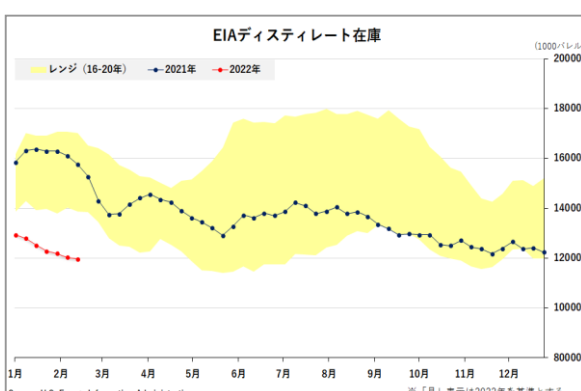
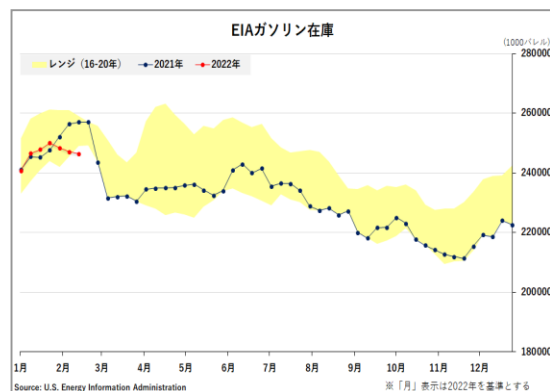
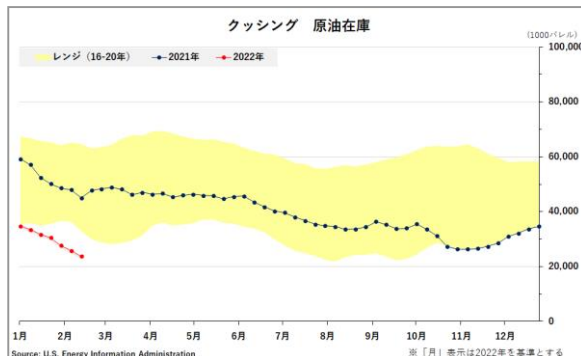
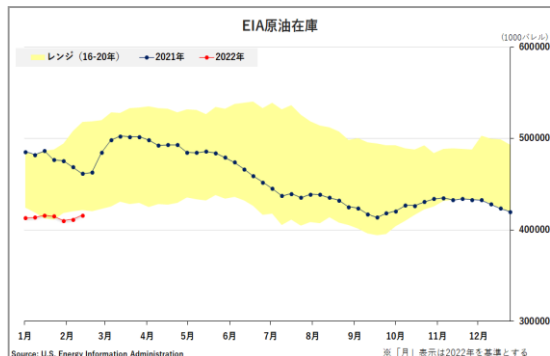


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/2/25	1026.99	-2.33
2022/2/24	1029.32	±0
2022/2/23	1029.32	+5.23
2022/2/22	1024.09	±0
2022/2/18	1024.09	+4.65
2022/2/17	1019.44	±0
2022/2/16	1019.44	±0



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/2/25	78,058.93	-0.16
2022/2/24	78,059.09	-0.22
2022/2/23	78,059.30	+197.35
2022/2/22	77,861.95	+9.18
2022/2/18	77,852.78	-0.16
2022/2/17	77,852.93	-0.16
2022/2/16	77,853.09	-0.47

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。